

2011

**ANNUAL
REPORT**



ごあいさつ

昨年3月11日の東日本大震災がもたらした未曾有の被害に対応するため、ピースウィンズ・ジャパン(PWJ)は事業計画を大きく変更し、2011年度の活動は、東北被災地での緊急・復興支援をひとつの柱として展開しました。緊急支援物資の配布に続き、4月に開設した岩手県一関市の事務所を拠点に、23人のスタッフが被災地域の人びとの暮らしの再建と、産業・経済の復興を支えてきました。支援者の方々や企業の皆さまに、ご寄付、物資の提供、ボランティア参加などの形でご協力いただきまして、心より御礼申し上げます。

震災から1年余りが過ぎた今でも、復旧・復興が進んでいない被災地も多く、がれきの処理すらほんの一部しか終わっていません。津波に襲われた地域のかさ上げや、地区ごとの高台移転など、新しいまちづくりの動きは緒についたばかりです。原発事故による放射能汚染を受け、いまだに数万の人びとが全国各地で避難生活を続けています。また、暮らしに直結する食べものの安全・安心を揺るがす放射能の影響も深刻です。復興への長い道のりのなかで、私たちに何ができるのか。国や自治体とは違う視点から復興支援を展開するNGOとして、どう被災者に寄り添っていけるのか。さらに、次に起こりうる大規模災害にどう備えるのか。今こそ、団体としての真価が問われる時だと感じています。

2011年度に海外では、10カ国で支援活動に取り組みました。アフリカのケニアでは、干ばつによる飢餓と治安の悪化のため隣国ソマリアから逃れてきた難民に対する住宅支援に向けた調査を始めました。2011年秋には、タイの洪水被害、トルコ東部の地震に対応し、スタッフを現地に派遣し、緊急支援を行いました。

東日本大震災で世間の関心が国内に集まり、海外での活動に対するご支援をお願いしていくのが難しい状況が続いていますが、「必要な人びとに、必要な支援を」のモットーを忘れることなく、これからも世界各地で起きる人道危機に対応し、果敢に活動を展開してまいります。今後とも皆さまのご理解とご協力を賜りますよう、よろしく願いいたします。

2012年5月

特定非営利活動法人(認定NPO法人) ピースウィンズ・ジャパン
代表理事 大西 健丞

2011年度 ピースウィンズ・ジャパン 年次報告書 - 2011. 2.1 - 2012. 1. 31 -

CONTENTS

ごあいさつ／ビジョン・ミッション	03
ピースウィンズ・ジャパンの活動	04
スタッフの横顔	06
2011年度 活動報告	08
皆さまからのご支援	18
フェアトレード事業	20
活動年表／団体概要／組織図	21
2011年度 会計報告	22

ビジョン

人びとが紛争や貧困などの脅威にさらされることなく、希望に満ち、尊厳を持って生きる世界をめざします。

ミッション

- 紛争や自然災害などにより、生命が脅かされている人びとに対し、迅速に緊急人道支援を行います。
- 社会的基盤の崩壊などにより、困窮している人びとに対し、自立のための復興・開発支援を行います。
- 支援地での活動を通じ、紛争の予防および解決に取り組みます。
- 支援の必要性に対する情報を発信し、市民の関心を喚起します。
- 援助システムをより効果的にするための提言を行い、その改善に取り組みます。

必要な人びとに、必要な支援を。

ピースウィンズ・ジャパンの活動

私たちは紛争や災害、貧困などの脅威にさらされている人びとに対して支援活動を行っています。
 1996年の設立以来、イラクやスマトラ沖地震の被災地をはじめ、世界で24の国や地域で支援活動を実施しました。
 2012年5月現在は、イラク、アフガニスタン、南スーダン、ケニア、ハイチ、スリランカ、東ティモール、モンゴル、日本の計9カ国で活動を続けています。

- 2011年度活動を行なった国・地域
- 活動を終了した国・地域

● New Orleans

● Haiti



ハイチ 2010-
地震被災者支援



国内避難民緊急支援



トルコ
東部地震被災者支援

南スーダン
2006-

● Sierra Leone
● Liberia



ケニア 2011-
東アフリカ干ばつ被災者支援(調査)

2011年度の支援事業一覧 受益者総数 43,814世帯+約59,576人

イラク			実施場所	受益者
復興支援	インフラ整備	小学校改築事業	ニワナ州アクレ郡・アルビル州	4,703人
アフガニスタン			実施場所	受益者
帰還地域復興支援	水・衛生	水資源調査	サリプル州	N/A
ハイチ			実施場所	受益者
地震被災者支援	インフラ整備	仮設教室建設	ポルトープランス郡	7,585人
		学校家具・学校備品・学用品の配給		
		キャパシティ・ビルディング講座		
		心理社会サポート講座 保健衛生向上講座		
南スーダン			実施場所	受益者
帰還民再定住支援	水・衛生	井戸建設及び衛生・井戸管理研修	ジョングレイ州	38,135人
		トイレ建設・衛生研修		1,258人
国内避難民緊急支援	支援物資配布			5,300人
東ティモール			実施場所	受益者
地域開発支援	自立支援	コーヒー生産者自立支援	エルメラ県	463世帯
	水・衛生	給水施設建設		220人
	女性支援	女性グループ活動支援	162人	
	自立支援	コーヒー生産者自立支援	リキサ県	136世帯



スリランカ			実施場所	受益者
帰還民再定住支援	生計支援	農業・酪農支援	トリンコマレ県・ムラティブ県	2,406世帯+652人
	シェルター支援	仮設住宅・トイレ建設	ワウニヤ県	152世帯
	インフラ整備	小学校再建	ムラティブ県・ワウニヤ県	1,557人
大雨洪水被害被災者支援	生計支援	稲作種子配布	トリンコマレ県	392世帯
	水・衛生	給水事業・井戸洗浄作業 汚水回収作業	トリンコマレ県・パティカロア県	36,116世帯

モンゴル		実施場所	受益者
教育・子ども支援	貧困家庭の子どもの自立支援	ウランバートル市	4人

日本		実施場所	受益者
東日本大震災被災者支援	緊急支援	宮城県気仙沼市・南三陸町 岩手県陸前高田市・大船渡市	23,879人
	仮設住宅入居者への支援	岩手県9市町	44,281人
	子ども・コミュニティ支援	宮城県気仙沼市・岩手県陸前高田市	4,224人
	経済復興支援	岩手県陸前高田市・大船渡市 宮城県南三陸町	100世帯+44,356人
国内災害対応	防災訓練	静岡県袋井市	N/A
災害救助犬育成	災害救助犬およびトレーナー育成	広島県神石高原町	

タイ		実施場所	受益者
洪水被災者支援	生活物資配布	パトゥンタニ県	3,662世帯

トルコ		実施場所	受益者
東部地震被災者支援	緊急調査および生活物資配布	ワン州	487世帯

現場を支える支援のプロ

ピースウィンズ・ジャパンの スタッフの横顔

希望に満ち、だれもが尊厳を持って生きられる平和な世界のために。
世界各地で、現地の人と力をあわせて活動しています。

海外



南スーダン 現地代表
石川 雄史

1973年大阪府出身／青山学院大学国際政治経済学部卒業／IT企業に勤務後プロボクサーになる／青年海外協力隊としてブルガリアに派遣／国連ボランティアとしてコンゴの国連ミッションに従事／ボスニア・ヘルツェゴヴィナにてJICA専門家として従事／2010年PWJの職員に。南スーダンへ赴任。

南スーダン赴任から、早くも1年半が経とうとしています。この間に、世界で一番新しい国「南スーダン共和国」が生まれ、その歴史的瞬間を感じることができました。

しかし、独立という輝かしいイメージからはほど遠く、南スーダンでは、さまざまな問題が山積みです。長年の内戦による疲弊のため、人びとが生きていく上で最低限必要な水や食料、そして住居などにも事欠くような状況です。政治的な独立は果たしても、自国民の生活を支えていけないようでは、実質的な独立国とはいえません。

私たちの活動は、その最低限必要な条件を整備することに徹しています。駐在環境は厳しく、治安も不安定ですが、最低限の必要を満たすには、そういう厳しい環境に身を置くことは切っても切り離せません。自分は、これまでの経験から、苦しく辛い努力の向こう側にこそ、大きなやりがいや喜びが待っているものだ、と感じてきました。それは、プロボクサーだった時期でも、キリマンジャロの頂に立った際も、そして南スーダンで活動する今も全く変わりません。

井戸の完成時に、村の女性たちが踊る歓喜の踊り。井戸を作るため、炎天下の中で村人とともに汗を流しながら鍬を振るい、井戸を完成させた経験。そうした素晴らしい瞬間に出会うため、今も南スーダンの地で働いています。



東日本大震災直後に南スーダンチームから送られた写真



イラク 現地代表
Kawa Sami Sabri
カワ・サミ・サブリ

1960年イラク共和国ドホーク州出身／国連で長年イラク国内避難民支援等に従事／2001年PWJの職員に。ドホーク事務所とアルビル事務所の事務所長を経て、2011年2月よりPWJイラク事業現地代表。

私は、2001年2月にPWJに入りました。その前は国連で長年働いておりましたが、効果的な支援を実施するには、柔軟性、決断力、透明性、コミュニケーション力、職務権限の広さといった特徴をもつ国際NGOで働きたいと考えようになりました。1990年代のイラクは、戦争や、地震、洪水、干ばつといった自然災害、伝染病の流行などいくつもの緊急事態に直面し、避難を強いられた人たちが迅速な支援を必要としていました。ここでは、国連に比べると資源、人材も限られた国際NGOが大きな変化を作り出していました。PWJもその1つで、私が当時働いていた国連イラク人道調整官事務所からの助成金で、イランからの帰還民に対する定住支援を実施していました。その時私はPWJの支援の姿に、私が思い描く支援像に近いものを感じ、国連を離れ、PWJのドホーク事務所とアルビル事務所の事務所長として働くことになりました。

イラクは、石油をはじめとする天然資源の収入に依存する豊かな国とみられていますが、その恩恵のごく一部しか一般の人びとには届いていません。特に農村部では、公共サービスが行き届かず、人びとは厳しい生活を続けています。PWJイラク事業では、これからも都市部と農村部のギャップを埋める支援

を実施していきます。(日本語訳:佐久間／牛田)



PWJアルビル事務所スタッフとその家族

国内



東北現地事業責任者
備中 哲人

1974年奈良県出身／大学卒業後、外資系専門商社に勤務／英国ブラッドフォード大学大学院平和学部紛争解決学卒業／2004年にPWJの職員に。リベリア、南スーダン、ハイチ、スリランカでの活動を経て、現在、東北現地事業責任者。

PWJとの出会いは英国の大学院在籍時。西アフリカのシエラレオネへ研究・調査旅行に赴き、PWJが運営するリベリア難民キャンプを見学したことがきっかけでした。その後、リベリア難民が母国帰還後の生活をサポートする活動にPWJスタッフとして携わり、以降スーダン南部・ハイチ、そしてスリランカで紛争や自然災害後の緊急支援と復興につながる活動を担当してきました。この、私の海外での経験がまさか日本において活用される日がくるとは思いもしませんでした。

震災当日はスリランカ東部の洪水緊急支援活動に携わっていましたが、急ぎよ帰国し、帰国翌日には陸路で東北へ向かいました。これまでも破壊された町並みや寸断された道路、避難民キャンプでの生活を目の当たりにして、そのような状況を改善すべく尽力してきましたが、被災されている方々が自分と同じ言葉を話し、それまでの生活が想像できる母国での活動というのは特別な思いがあります。また海外でも国内でも活動内容の組み立てや実施方法については同じですが、海外では数年単位の時間がかかることが、日本では数カ月で進んでいくこともあり、常に現地の状況やニーズを更新し、その時期その場所で必要な支援とは何かを考えながら活動を続けています。

東北での生活は豊かな海の幸・山の幸に恵まれた郷土料理や四季の祭りなどの伝統行事、東北の人びととの交流を通して、日本の多様な魅力を発見する毎日です。復興にはこれから長い年月がかかります。まだまだ余震も続き、予断は許しませんが、震災前からの地域の課題にも取り組んでいく“復興”を現地の方々と共に考え、協力をしてこれからも活動を続けていきます。



「さんま直送便」念願の再開の出発式



大船渡漁港にて引き渡し式



広島 災害救助犬育成トレーナー
藤崎 啓

1984年新潟県出身／警察犬訓練所へ入所、5年半の課程を経て卒業／犬のトレーナーとして独立開業／2010年PWJの職員に。広島県での災害救助犬育成事業に携わる。

広島県神石高原町に赴任してから1年半が過ぎました。近年、殺処分となる犬・猫が年間約30万頭ともいわれる中で、「人によって捨てられた犬が人の命を救う」というテーマに感銘を受け、殺処分寸前であった犬たちが立派な災害救助犬として活躍できるよう、日々訓練に励んでいます。

新しい環境で必死に頑張ってきた犬たちは、東日本大震災の発生時には、現場へ赴き捜索活動を行うことができるレベルにまだ達しておらず、悔しい思いもしました。現在では、福島原発事故で被災した犬2頭も災害救助犬チームに加わり、外部の訓練士との合同トレーニングなどを通じて技量の向上を図っています。また、混乱した災害現場で犬たちとともに迅速かつ効率よく救助活動が行えるよう、私たちスタッフも初歩的なレスキュー訓練を始めました。倒壊した家屋から人を救出する方法、けがの応急処置、ヘリを使った搬送など、あらゆる場面を想定して行う訓練はたいへん厳しいものですが、昨年の震災を目の当たりにした私たちにとって、レスキュー訓練は命の重さを再認識させられる、とても貴重な時間です。犬たちも含め、全員が呼吸を合わせて行動することが求められる環境を通じて、チームの絆も強くなってきているように感じます。ここ神石高原町より被災現場へいち早く駆けつけ、捜索・救助活動を行うその日に備えて、挑戦の毎日です。



ヘリを使った搬送の訓練にて

2011年度 活動報告

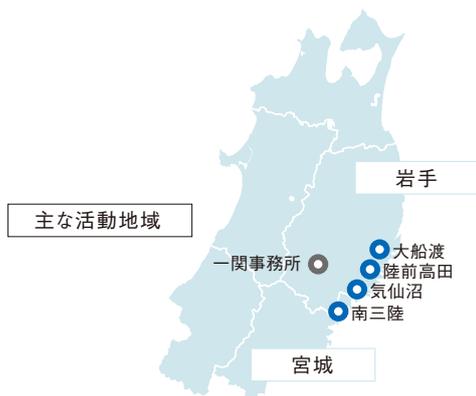


東日本大震災被災者支援

災害緊急支援から復興のあと押しへ

2011年3月11日の東日本大震災の発生直後から三陸沿岸の被災地に入り、直ちに活動を始めました。救援物資の配布を中心とした初動支援から、復興を見据えた支援へと徐々に重点を移しながら、「仮設住宅」「経済復興」「子ども支援」の3つの課題への対応を軸に事業を展開しました。

今後、数十年の後に、東北の人びとが「みんなで協力して、あの震災を乗り越え、地元の人同士の結びつきを一層強めることができた」と思えるように地域の復興を支える活動を見出していくことが、これからの挑戦となります。PWJは、自治体や民間企業、また地元の団体と協力しつつ、「地域の復興のあるべき姿」を実現するために支援を続けていきます。



現地から

ふるさとの地に希望を託して

南三陸町で経済復興支援を担当するPWJ西城幸江は、この町で生まれ育ちました。震災前は青年海外協力隊（JICAが実施する海外ボランティア派遣制度）の隊員として南米パラグアイに滞在していましたが、震災を機に帰国しました。現在は、南三陸町の住民たちに声をかけながら、「この町を立て直す起爆剤になれば」との思いを胸に毎日の業務に携わっています。



震災後のピースウィンズ・ジャパンの動き

3月

震災発生直後に支援を決定し、翌日にはヘリコプターで現場を視察、その後1カ月間で約160トンの救援物資の配布などを実施。刻々と変わる被災地のニーズに柔軟に対応した支援を行いました。



4月

- 4/11中長期的な支援を見越して、岩手県一関市に事務所を開設しました。
- 4/9から岩手県9市町の仮設住宅入居者に布団や食器などの生活用品の提供を開始し、計8,588世帯にお届けしました。
- 外出するための交通手段がない方々のために、陸前高田市の避難所や仮設住宅をまわり、スーパーや病院にお連れする「おもいやりバス」の運行を開始しました。
- 陸前高田市、大船渡市、南三陸町の商工会を通して、事業再開に必要な備品や、移動販売車を提供しました。
- 子どもが安心して自由に遊べる場を提供する「アートのスポーツキャラバン」を開始しました。



5月

大船渡市にて、被災者の方々が新たな場所で生活を始める一助として、地元のスーパーとショッピングセンターで利用できる商品券を2,398世帯に配布しました。

6月

大船渡市魚市場の再開にあたり、大船渡市役所を通じて、事務機器を提供し、市場の業務環境を整えました。

7月



仮設住宅入居者への生活用品の提供が繁忙期を迎えるにあたり、多くの企業からボランティアの方にお手伝いいただき、計画通り各世帯にお届けすることができました。

8月

- 陸前高田市の「動く七夕祭り」や復興まちづくりイベント、気仙沼復興祭の山車に使われる電飾や会場の備品、シャトルバスサービスなどを提供しました。
- 南三陸町での漁業支援が本格化し、歌津漁協に、わかめの養殖支援に必要な浮き、ロープ、海の信号機などを提供しました。志津川漁協には新事務所を開設するためのプレハブ事務所などの設備を提供しました。



9月



全国有数のさんまの水揚げを誇る大船渡市場で25年間続いていたさんま直送便事業の再開に携わり、例年通りに日本全国の消費者に新鮮なさんまをお届けすることができました。

10月



気仙沼市内の児童館で行われた運動会を支援しました。体育館で思いっきり走り回る子どもたちの笑顔が印象的です。

11月



東北の寒い冬の到来を前に、岩手県の仮設住宅入居者計7,590世帯に暖房器具を提供しました。各市商工会との協力により、地元の家電小売店から購入し、配送することで、地域経済の活性化にも貢献しています。

12月



「喪失体験が子どもの心身に与える影響と回復支援」と題し、ダギー・センター所長のドナ・シャーマン氏を講師に、子どもに関わる方々を対象とした講演会を開催しました。

2012

1月

宮城県気仙沼市にて、スポーツや身体を動かすアクティビティを通して子どもたちの心理社会的ケアを図るムービング・フォワード(MF)プログラムをスポーツ少年団と連携して実施しました。



IRAQ [イラク]

未来を担う子どもたちに学びの場を

PWJは1996年の設立以来、イラク北部のクルド人自治区を中心に、教育、医療、保健衛生、社会福祉などの支援活動を行ってきました。2009年後半からは、イラク北部の教室不足や校舎の老朽化などの劣悪な学習環境を改善するため、小学校改築事業を実施しています。2010年に始めたアクレ郡での小学校5校の改築が2011年5月末に完成し、ザホ郡・アクレ郡の支援校は計9校となりました。さらに2011年6月からは、アルビル州で小学校7校の改築事業を開始し、2012年3月末の完成をめざしています。

また、約3年半をかけて2010年9月に完成したハラブジャ母子保健病院では、2011年9月に建設業者のメンテナンス（維持管理）保証期間が終わり、最終確認や譲渡手続きが完了しました。50床を備えた同病院は、ハラブジャだけでなく、周辺地域の産婦人科・小児科の中心となる病院として認識されており、これからも地域随一の病院として機能することが期待されています。

現地から

小学校増築修復事業を実施した学校の先生より



生徒の人数に対して教室数が足りず、授業時間を短縮して朝と昼の2交替制で運営していました。教室の窓が壊れても、それをナイロンで覆うだけで、冬場は教室内がとても寒く、生徒たちは授業中、寒さで凍えていました。多くの生徒が貧しい家庭のため、暖かい服を着てくると生徒に言うこともできず、自分の無力さを感じていました。PWJの増築修復事業を経て、生徒たちは毎朝、新しくなった教室にとってもうれしそうに入ってきます。PWJの皆さまにお礼を申し上げます。いつかイラクが教育や科学の分野で日本のレベルに到達できる日がくることを願ってやみません。

Iraq イラク
面積 約44万平方キロメートル(日本の約1.2倍)
人口 約2,710万人
首都 バグダッド
スタッフの数 現地スタッフ5人





SOUTH SUDAN [南スーダン]

世界で一番新しい国、南スーダンに命の水を

アフリカ最長の激しい内戦のため、社会基盤が完全に破壊された南スーダン。内戦終結後も社会基盤の整備は進まず、そこへ帰るべき住民の帰還が遅れています。PWJは水をはじめとする支援のニーズが極めて高い地域で、井戸掘削や衛生施設の建設を進め、難民の帰還と復興を促しています。

2011年度は、これまでより対象地域を拡大し、水・衛生や教育分野の支援を行いました。2月から3月にかけてジョングレイ州アコボ郡に12本、デュック郡に8本の手押しポンプ式の井戸を建設し、同州の井戸の合計は151本となりました。井戸を引き渡したすべての村に対しては、水・衛生の知識、ポンプの維持管理、井戸を囲むフェンスや排水溝の整備について研修を行っています。2012年3月末までに計25本の井戸を建設する計画で、1月に掘削工事を開始しています。衛生分野では、2011年に同州アユッド郡に6室の公共トイレを2棟建設し、ポー郡で集落用トイレ50基の建設支援を始めています。

また、2011年末から2012年1月にかけて、ジョングレイ州

ピボール郡で民族間の対立が激化し、孤立した住民が避難先で生活必需品を入手しにくい状況にあることが確認されたため、緊急支援物資を配布しました。民族対立は今後も予断を許さず、必要に応じて支援を検討します。

現地から

駐在スタッフ石川雄史より



遠く離れた奥地の村々にはまだまだ井戸の無い所がたくさんあります。灼熱の日差しの中、女性たちは20kgの水のタンクを頭に載せて、何時間も歩いて水を汲まないといけません。日中50度を超える日もあるため、体調が悪くなって倒れば命を落としかねません。私たちは現場の村々を直接訪れ、住民から直接状況を聞き取った上で、井戸を建設する場所を選定しています。本当に水が無くて困っている人びとへ、命の水となる井戸を提供したいという思いの下、私たちは毎日活動しています。

South Sudan 南スーダン

面積 64万平方キロメートル(日本の約1.7倍)

人口 826万人

首都 ジュバ

スタッフの数 日本人スタッフ4人・現地スタッフ21人





SRI LANKA [スリランカ]

内戦後の帰還民の本当の自立をめざして

20年以上におよぶ内戦によって避難生活を余儀なくされたスリランカ北部の人びとが、内戦終結後に故郷に戻っています。PWJは、帰還した住民の生活を支援しています。2011年度はトリンコマレ県や北部ムラティブ県、ワウニヤ県で、引き続き帰還民の再定住を支援しました。北部では生活を立て直し、現金収入を得て自立するのに役立ててもらうための696世帯を対象とした生計支援パッケージの配布、帰還民150世帯に対する仮設住居とトイレの資材の配布に加え、小学校5校を建設して帰還を促しました。東部では、緊急支援から復興支援への過渡期に入り、紛争により20年以上放置されていた伝統的なため池6カ所と水路わきの道路の修復を行いました。ため池が有効に利用されるように、住民組織を通じて維持管理の方法などを伝えました。酪農家の収入向上を目的に、地域にある公営ミルク工場にミルク回収車や冷凍冷蔵車を提供したほか、増産のための研修も行いました。また、2011年1月に発生した東部トリンコマレ県、パティカ

ロア県での洪水被害に対する緊急支援として、3,357世帯を対象とした食糧配布や、約43,000世帯への給水支援を行いました。洪水で汚染された741本の井戸を除菌洗浄し、道路を修復したほか、流された苗や農具などを農家392世帯に配布しました。

現地から



ムラティブ県に帰還したカピタさん(30代・女性)の場合

以前にヤギを飼っていた経験があることから、生計支援パッケージのヤギ(雄1頭、雌2頭)を選択し、生計を立て直すことに決めました。スリランカのヤギは1年間に平均2匹を出産するため、2頭の雌ヤギから1年間で合計4頭出産することが期待できます。雄ヤギは、肉食用として6,000~8,000ルピーの収入になります。ヤギを少しずつ増やし、3年後には雌ヤギを10頭まで増やすことをめざしています。

Sri Lanka スリランカ

面積 6.5万平方キロメートル(北海道の約0.8倍)

人口 約2,063万人

首都 スリ・ジャヤワルダナプラ・コッテ

スタッフの数 日本人スタッフ3人・現地スタッフ17人





HAITI [ハイチ]

震災から2年「Build Back Better」

2010年1月の大地震から2年が経過したハイチは、地震の前から中南米の中でも最も貧しく政治的に不安定だったことや、地震が首都を直撃したこともあり、国全体としてはなかなか復興が進んでいません。単に地震前の状態に戻すだけではなく、これを機会に道路や水道、法制度などの社会インフラ整備を行い、国としての開発や経済発展を促進しようという「Build Back Better(以前より良くする復興)」という呼びかけも聞かれます。PWJは昨年度に引き続き大地震の被災校を対象に、教育環境再建支援を実施しました。2010年度に建設に着手した10校が完成し、事業開始からの支援校は23校になりました。各校のニーズに合わせて、仮設教室・トイレ・教員室・調理室・フェンスなどを設け、備品や学用品・教科書なども提供しました。

また地域住民や教員、生徒による「学校支援委員会」を各校につくり、このメンバーを対象に、自校の問題を把握して解決法を見出す力を養うための講座を開催したり、学用品の配布時に仕分け作業を分担してもらったりと、受益者参加型で事業を

進めました。また、震災でトラウマを負った生徒への対応を学ぶ教師向けの「心理社会サポート講座」、コレラ予防に力点を置いた生徒向けの「保健衛生向上講座」をそれぞれ開催し、広義の教育環境再建、改善のための事業を実施しました。

現地から

駐在スタッフ山元めぐみより

校舎が完成すると、それぞれの学校が開校式を企画し、PWJスタッフを招待してくれました。生徒や先生、保護者や地域住民がぞくぞくと集まる熱気の中、感謝の言葉が伝えられました。ある生徒は「こんなきれいな学校ができてうれしい。新学期からここで勉強するのが楽しみ!」と満面の笑顔。またある校長先生からは「日本でも震災で大きな被害が出ている中で、ハイチでの支援を続けてくれてどうもありがとうございます。日本の皆さまのためにお祈りさせていただきます。」というメッセージがありました。

Haiti ハイチ

面積 2.8万平方キロメートル(四国と九州の中間程度)

人口 1,009万人

首都 ポルトープランス

スタッフの数 日本人スタッフ3人・現地スタッフ11人





EAST TIMOR [東ティモール]

不作に負けず新たなチャレンジを続けています

インドネシアの実効支配を経て、2002年に独立を果たした東ティモール。独立から10周年を前にした今年度、PWJにとっては、我慢と新たな展開に向けたチャレンジの一年でした。2003年からコーヒーの品質向上と生産体制の確立を大きな目標としてコーヒー生産者支援を行い、スペシャルティコーヒーとして日本で多くの方々に飲んでいただけるようになりました。一方で、生産地では「裏作」とコーヒーの木の老齢化という問題に直面しています。コーヒーは一本の木から収穫できる実の量が一年おきに増減しますが、今年は減ってしまう「裏作」に当たりました。木自体も年齢を重ねるにつれ収穫量が減ってしまうため、今年は裏作と木の老齢化の影響により収穫量は昨年の95トンに対して26トンと大幅に減ってしまいました。

事業の継続には安定した収穫量の確保が不可欠です。そこで今年度は、裏作対策として買い付ける生産者数の拡大、木の老齢化に対してはPWJのテスト圃場(コーヒー農園)にて木の台切り(幹の部分を取り落とし、そこから新しい芽が生え木が

再生される)を実施しました。台切りは一時的に収穫量(収入)が減ってしまうため生産者の理解が得られずこれまでほとんど浸透しなかったため、PWJがテスト圃場で台切りの成果を実証することで生産者の理解と自主的な作業を図ります。

現地から

コーヒー生産の現場より

ポルトガル植民地時代に持っていたコーヒー品質への絶対の自信をインドネシア支配時代に一度は失いかけてきましたが、PWJの支援のおかげで、私たちは過去の誇りを取り戻すことができました。感謝の意味を込めて、日本の皆さんには良質のコーヒーを届けたいです。不作年の収穫期を目前に、品質の徹底管理を提案する人や、経験豊かなリーダーに教えを乞う若い生産者など、現地ではお互いが助け合ってコーヒー生産に向き合っています。



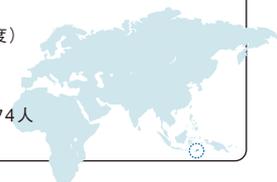
East Timor 東ティモール

面積 1.5万平方キロメートル(首都4都県程度)

人口 約107万人

首都 デリ

スタッフの数 日本人スタッフ1人・現地スタッフ4人





AFGHANISTAN

〔アフガニスタン〕

アフガニスタンの慢性的な水不足の解消を目的として2003年より続けてきた水資源調査事業は、現地の治安悪化を受けて事業を一時中断しています。現場の状況を鑑みながら、水資源調査の成果を現地政府へ移譲する方向で検討しています。

MONGOLIA

〔モンゴル〕

貧困や家庭の事情のために家族と暮らすことができない子どもたちへの支援を継続しました。首都ウランバートルにある児童保護施設「ベルビスト・ケアセンター（VCC）」で生活している4人の子どもたちが、職業訓練校や小中学校で勉強に励んでいます。面接やカウンセリングを通じて学業後の進路を相談するなど、社会での自立に向けた支援も始まりました。今後もVCCを通じて子どもたちの成長を応援していきます。

Afghanistan アフガニスタン

面積 65万平方キロメートル(日本の約1.7倍)
人口 3,000万人
首都 カブール



Mongolia モンゴル

面積 156.5万平方キロメートル(日本の約4倍)
人口 278万人
首都 ウランバートル





THAI [タイ 緊急支援]

7月から続いた豪雨により、記録的な洪水被害に見舞われたタイ。10月には首都バンコクの全50地区のうち17地区が被災しました。当初想定していた市内の避難所での支援は現地政府などにより充足していたため、バンコク北部に隣接するパトゥンタニ県で活動しました。洪水被災地域の中でも、川沿いに位置する平野部のため浸水状態が2カ月以上続き、他の地域に比べて水も引きにくく、水深は常に1.5-2mとなっていました。政府の支援が届きにくい移民労働者の世帯を含む8地域の3,662世帯の自宅避難者を対象に、パートナー団体の公益社団法人Civic Forceと連携して、米、水、補助食料、衛生用品を配布しました。子どもがいる家庭には牛乳や粉ミルクを別途配布しました。水位が下がり、被害が収束に向かったことを確認したため、配布の完了をもって支援を終了しました。

TURKEY [トルコ 緊急支援]

10月23日に発生したマグニチュード7.2の地震は、死者459人・負傷者1,352人の被害をもたらしました。震源に近いワン州のワン周辺地域およびアージッシ郡では全壊の家屋が多く、住民が戸外での生活を余儀なくされていました。被災地域がPWJのイラク事務所から地理的に近いことから、10月29日には被災地入りし調査を開始。ワン市周辺の4村において、衛生用品・下着・防寒用品などのニーズを確認しました。11月4日から同村計487世帯に対して衛生用品・下着や毛布を配布し、支援を終了しました。

KENYA [ケニア 調査]

7月、干ばつに起因した飢饉がアフリカ東部で発生し、ソマリアから約29万人が難民となってケニア、エチオピアなどの周辺国に流入しました。10月に調査チームを派遣し、ケニア北東州で国連・NGO・現地政府・地域住民などからの情報収集と必要な協議を行い、国境付近のダダーブ難民キャンプでの事業計画の概要を策定しました。2012年度の事業開始を予定しています。



〔国内事業〕

人に捨てられた犬が人の命を救う

地震などの緊急災害時の初動対応力を高めるべく、広島県神石高原町にて災害救助犬の育成事業を行っています。2010年11月に広島県動物愛護センターから子犬4頭を譲り受け、育成を開始しました。うち1頭は殺処分直前の状況だった中、処分用ケージの通称“ドリームボックス”から生還し、夢と希望を託す意味を込めて、「ゆめのすけ夢之丞」と名付けられました。4頭のうち、夢之丞と杏については引き続き災害救助犬として訓練していますが、おとなしくて愛嬌のあるリーベとカズについては、福祉施設などで暮らすお年寄りのための「セラピー犬」として訓練していくことになりました。2011年10月には作業犬としての血筋をもつハルクを迎え入れ、夢之丞たちをリードしていくことで、訓練のレベルを底上げすることをめざしています。2012年はじめには福島原発事故の被災地からベアーとチビの2頭が仲間に加わり、救助犬として訓練することにしました。どちらも飼主が避難した際に福島県飯館村に取り残され、東京の民間団体に救出された犬です。ベアーは好奇心が強く遊び

好き。チビはやさしい性格で元気いっぱいです。

また、前年度に続き、大西代表理事が座長を務める神石高原町の地域再生戦略会議で過疎地域の活性化に向けた政策を提言。「道の駅」の改革、食のイベント「神石高原マルシェ」の運営、日本に住む難民を農業の担い手として受け入れる構想の調査などに町と連携して取り組みました。広島県の観光政策「瀬戸内海の道構想」で提言された瀬戸内地域の公益プラットフォームの実現に向け、地銀、シンクタンク、県をはじめとする関係者と協議・調整を進めています。

防災協定先である静岡県袋井市においては、12月に行われた防災訓練に参加し、緊急支援用大型テント「バルーンシェルター」による避難所設営を指導しました。



皆さまからのご支援

個人の皆さまからのご支援

より多くの皆さまに活動を知っていただき、参画の機会を広げるための仕組みを提供しています。

ご寄付

PWJは2010年3月、「認定NPO法人」として国税庁に認可されています。これにより、PWJへのご寄付は寄付金の税金控除の対象となります。
※但し、正会員会費は控除の対象ではありません。
月々1,200円～の会員制度「ピースサポーター」などを通じて継続的に寄付いただけます。

ボランティア

平日の事務所で作業手伝いや、土日のイベント企画、補助など、随時募集しています。



ブックキフ

ブックオフコーポレーションの協力により、不要になった中古本やCDを無料集荷の上、買い取り金額の一部がPWJに寄付されます。

ハガキフ

書き損じハガキや未使用切手をPWJにお送りください。交換した切手を事業で活用させていただきます。

JustGiving Japan



ポータルサイト上で個人もしくはチームの目標を掲げ、達成へのチャレンジを通じてPWJのために寄付を集めることができます。

企業や団体の皆さまからのご支援

PWJでは、設立当時より企業や団体の皆さまを大切なパートナーと考え、連携を重視してきました。

特に、2011年3月の東日本大震災発生以降、多くの企業や団体から寄せていただいたご協力により、広範囲かつ効果的な支援を展開してきました。

今後、公共サービスの提供において民間セクターの担う役割が一層高まる機運の中、

それぞれの特色とリソースを活かした協働について、さらに可能性を広げていきたいと考えています。



01

特性を活かした支援

商品の売り上げの一部を寄付、また自社媒体や販促ポイントを活用して顧客に寄付の機会を提供するなど、企業のもつ流通や販売チャネルなどを活かしたキャンペーンを展開しています。



02

東北被災地でのジブリ映画キャラバン

「被災地の子どもたちを楽しませたい」というPWJの要請にスタジオジブリが応え、避難所を巡回する映画キャラバンにて、「となりのトトロ」などジブリ作品を上映。子どもはもちろん、大人も時おり歓声をあげてスクリーンに見入っていました。

03

会社をあげて社会貢献活動

自然派化粧品「シャノンマーレ」の販売などを行う株式会社社風の音舎（2012年4月に株式会社シャノンマーレ化粧品へ称号変更）は、PWJの活動を応援してくださっています。

代理店販売に携わる皆さまも、社会貢献を目的とした「シャノンマーレソーシャルファンド」を組織し、PWJへの寄付やフェアトレード商品の購入をしていただいています。また、東日本大震災に対応した支援活動でも、商品の提供や現地でのボランティアなど、積極的な支援への参画をいただきました。



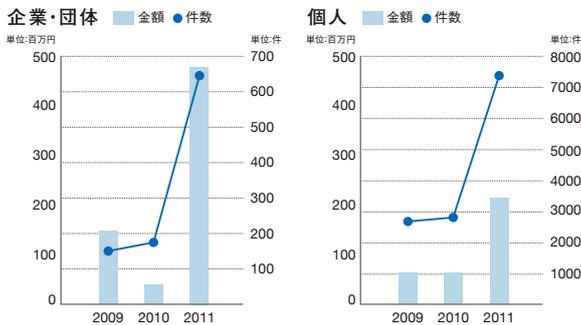
04

防災協定により、あらかじめ支援内容を協議

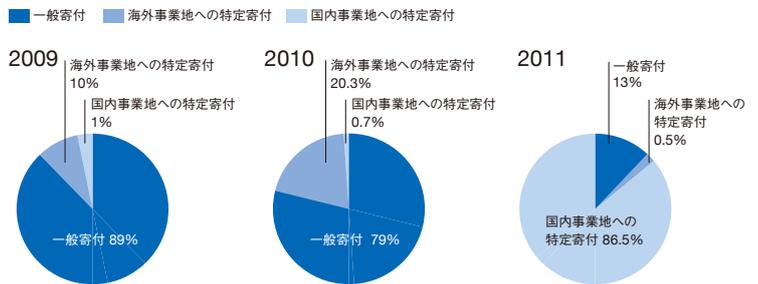
今後、想定される大規模災害に備え、PWJと連携する施策を事前に協議します。災害発生時に、現場で支援活動を展開するPWJへ提供が可能とされる支援物資やサービス、ボランティア人材やオフィススペースなどをご提示いただく協定です。

企業・団体・個人からの寄付の推移

寄付状況



寄付の内訳



2011年度の高額寄付企業・団体

※50万円以上。社員や顧客などの寄付を集約・代行して入金された金額を含む

アピデ株式会社／株式会社エクスパンド／株式会社エニシル／株式会社きく屋宝石店／ギフコ株式会社／クラヴマガ・ジャパン株式会社／医療法人 蔡愛会石川病院／「攻殻機動隊S.A.C.SOLID STATE SOCIETY 3D」製作委員会／ゴールドマン・サックス／ジェイワード株式会社／一般財団法人 ジャスト・ギビング・ジャパン／シャディ株式会社／シャノンマーレ ソーシャルファンド／セラミックフォーラム株式会社／セント・ジョン株式会社／ソフトバンクモバイル株式会社／宗教法人 大本山百萬遍知恩寺／特定非営利活動法人 チャリティ・プラットフォーム／株式会社ツツミ／ティンバーランド ジャパン株式会社／東栄産業株式会社／株式会社ドワンゴ／日興AM従業員チャリティプログラム(日興アセットマネジメント株式会社)／日本ロリアル株式会社／特定非営利活動法人 パブリックリソースセンター／株式会社ヒロコーヒー／フィアット グループ オートモービルズ ジャパン株式会社／学校法人 双葉学園／株式会社プロマックス／株式会社ワンダーシティ／株式会社日本ホールマーク／みずほ証券株式会社／三菱ケミカルホールディングス／三菱樹脂株式会社／ヤフー株式会社／株式会社有隣堂／株式会社ユナイテッドアローズ／株式会社ラッシュジャパン／リコージャパン株式会社／株式会社ロワール／As-me エステル株式会社／Forevermark株式会社／International Rescue Committee／ITI International Team for Implantology／J.S.Foundation／Mercy Corps／一般財団法人 mudef／Peace Winds America／Think the Earth 基金／Tides Foundation／UBS (UBS証券会社,UBS銀行東京支店,UBS証券会社,UBSグローバル・アセット・マネジメント株式会社)

尾道事務所



業務の効率化に努めながらカタログ販売事業「PWJ特選マルシェ」を継続し、2011年夏以降は震災支援の一環として福島産の果物を販売しました。神石高原町の災害救助犬訓練センターを活用したドッグホテル、隣接するドッグランの管理・運営など、犬に関連した収益事業にも取り組みました。

学校プロジェクト



子どもたちに支援活動の実態や海外の支援地の様子などを伝える「学校プロジェクト」にも継続的に取り組んでいます。

情報発信

Follow me on Twitter
@PeaceWindsJapan



日本国内においては、支援の必要性、NGO/NPOの役割などに関する情報発信にも力を入れています。またリアルタイムな情報を伝えるTwitterやFacebookを活用し、多くの支援者とのコミュニケーションの構築をはかっています。

メディア掲載

<2月>テレビ東京(「ワールドビジネスサテライト」)広報山下が出演
<3月>雑誌TIME(広報山下のコメント掲載)／テレビ朝日(「スーパーモーニング」東北での活動が紹介)／テレビ朝日(「やじうまテレビ」)事業部齋藤が出演)／日テレ(「action!」)代表理事大西が出演)／朝日新聞(代表理事大西のコメント掲載)／NHK(「ニュースウォッチ9」)代表理事大西が出演)／テレビ朝日(「朝まで生テレビ!」)代表理事大西が出演)・TOKYO FM(「鈴木敏夫のジブリ汗まみれ」)に代表理事大西が出演
<4月>読売テレビ(「ウェークアップ!」)代表理事大西が生出演)／毎日新聞(「論点」)代表理事大西のコメントが掲載)／日テレ(「news every.」)フェアトレード部松田が出演)／NHK(「白熱教室 JAPAN」)PWJがケーススタディの題材に)／BS朝日(「いま世界は」)緊急対応部長山本が生出演)
<5月>Japan Times(東北での子ども支援事業が紹介)
<6月>中央公論6月号(代表理事大西の対談が掲載)
<7月>テレビ東京(「地球VOICE」)東ティモールでの活動が紹介)
<8月>読売新聞(災害救助犬育成プロジェクトが紹介)／毎日小学生新聞(「仕事発見!NGO職員」)事業部西野が出演)

フェアトレード事業

東ティモールからの応援メッセージやコーヒーを東北にお届けし、福祉施設、企業と連携しながらより広くフェアトレードが普及するよう努めました。

01

東北にピースコーヒーをお届けしました



3/17、支援物資を積んだ車にドリップバッグのピースコーヒーを積み、避難所にて配布しました。4月初旬には宮城県南三陸町、同県気仙沼市の避難所にコーヒーメーカーを持参し、淹れたての東ティモールピースコーヒーを2日間で約1,000杯提供しました。「ホットしたよ」「嗜好品は全く届いてないからうれしい」「今まで飲んだコーヒーの中で一番美味しいよ」などの温かい言葉をいただきました。



02

「がんばろう日本」寄付つきコーヒーを販売



「コーヒーで東北を応援したい」という想いからコーヒーを購入すると東北に寄付していただける商品を4月より販売。この企画に賛同していただいた企業様よりラベルのデザイン・印刷したシールをご提供いただき、たくさんの方々にご協力いただきました。



03

コーヒービーンズチョコ、カフェオレポウルなどを福祉施設とコラボ

北海道のクビドフェア様のピースコーヒーを使ったビーンズチョコレートとピースコーヒーのセットギフトを販売しました。また、神奈川県を進和学園様には、ピースウィンズのオリジナルカフェオレポウルを作っていました。PWJでは今後も企業様や福祉施設とのコラボ商品開発に力を入れていきます。

04



企業での販売会実施、社内イベントでの利用

2011年も多くの企業様で社内販売会を実施していただき、フェアトレードや商品についてご紹介しました。また、キャンペーンやアンケート回答者へのプレゼントや、株主総会で提供するコーヒーとしてなど、様々な形で商品をご利用いただきました。

05

ブログ、Facebook、Twitterを使った情報発信

昨年に引き続き、東ティモールの日常やイベントの写真の公開や、Twitterを使ったキャンペーンなども行いました。



Follow me on Twitter

@PeaceWindsShop



06



文化祭やイベントなどでの委託販売をスタート

文化祭やイベントなどでフェアトレード商品を販売したいというお問い合わせをたくさんいただき、より多くの方に気軽に販売していただけるように委託販売パッケージを作りました。HPからお申込みいただけます。

ピースウィンズ・ジャパンについて

活動年表

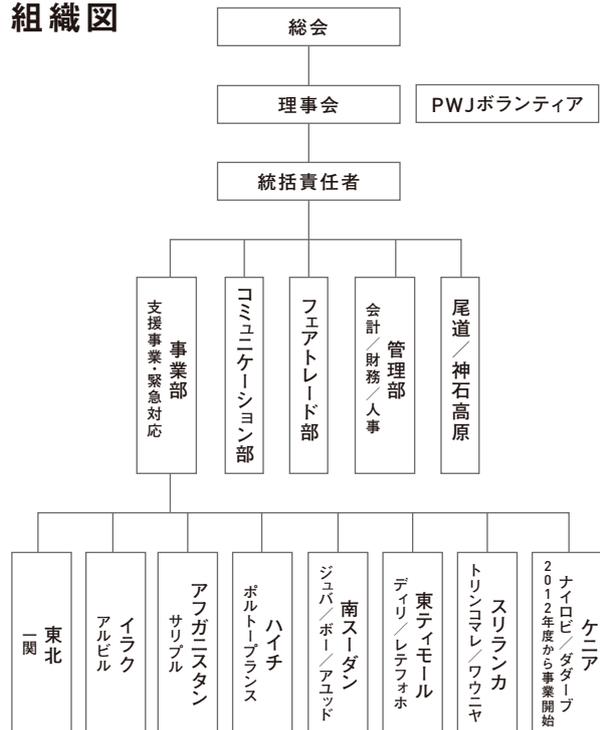
1996	2	ピースウィンズ・ジャパン設立
	3	イラク北部クルド人自治区で支援事業を開始
	8	モンゴルで支援事業を開始
1997	11	インドネシアで支援事業を開始
1998	6	朝鮮民主主義人民共和国で緊急食糧支援
1999	4	旧ユーゴスラビア・コンボ自治州で緊急支援(～2000年3月)
	9	中国雲南省チベット人自治州で支援事業を開始(～2007年1月)
	10	東ティモールで支援事業を開始 NPO法人格を取得
2001	1	インド西部震災支援(～2001年9月)
	4	シエラレオネで支援事業を開始(～2007年3月)
	11	アフガニスタンで支援事業を開始
	12	アフガニスタン復興NGO東京会議を開催
2003	4	イラク・クルド人自治区外に支援を拡大
	12	イラン・バム震災緊急支援(～2006年2月)
2004	3	リベリアで支援事業を開始(～2010年2月)
	10	新潟県中越地震緊急支援(～2004年11月)
	12	インドネシア・スマトラ島沖地震・津波緊急支援(～2006年3月)
2005	3	静岡県袋井市と「災害時の支援協定」を締結
	9	アメリカ・ハリケーン被災者緊急支援
	10	パキスタン北部地震緊急支援(～2006年5月)
2006	3	東京都葛飾区と「災害時の支援協定」を締結
	5	東京都世田谷区と「災害時の支援協定」を締結
	8	南スーダンで支援事業を開始
2007	7	新潟県中越沖地震緊急支援(～2009年8月)
	11	尾道事務所開設
2008	5	ミャンマー・サイクロン被災者緊急支援(～2009年8月)
2009	7	スリランカで支援事業を開始
	10	インドネシア・スマトラ島西部沖地震被災者緊急支援(～2010年12月)
2010	1	ハイチ地震緊急支援を開始
	3	国税庁により「認定NPO法人」に認定
	11	広島県神石高原町にて災害救助犬の育成事業を開始
2011	3	東日本大震災被災者支援を開始
	4	広島県神石高原町にて「災害救助犬訓練センター」を開設
	10	東アフリカ干ばつ支援に向けて準備を開始 トルコ東部地震被災者緊急支援
	11	タイ洪水被災者緊急支援

団体概要

2012年1月31日現在

名称	特定非営利活動法人 ピースウィンズ・ジャパン		
設立	1996年2月		
法人格取得	1999年10月		
事務局有給職員数	57人 (海外駐在スタッフ14人／東北駐在スタッフ16人／国内事務局付スタッフ27人)		
役員 代表理事	大西	健丞	
理事	木村	町子	
	三宅	登志子	
	石井	宏明	
	鍵山	秀三郎	
	山本	理夏	
	桑名	恵	
監事	清水	雄二	

組織図



2011年度 会計報告

収支計算書 2011年2月1日～2012年1月31日

収入の部	円	構成比
特定非営利活動に係る事業		
会費収入	51,950,700	2.0%
一般寄付金収入	47,207,911	1.8%
特定目的寄付金収入 ^①	685,978,332	25.8%
物品・現物等寄付収入	4,729,163	0.2%
政府からの補助金収入	120,421,763	4.5%
国際機関からの補助金収入 ^②	10,907,680	0.4%
民間助成金収入	1,173,044,205	44.2%
業務受託収入	81,846,476	3.1%
その他事業収入	1,218,364	0.0%
その他収入(保証金返還収入、受取利息、雑収入等)	7,815,343	0.3%
小計	2,185,119,937	
その他の事業		
収入	85,758,080	3.2%
当期収入合計	2,270,878,017	
前期からの繰越金 ^③	386,056,033	14.5%
収入計	2,656,934,050	

① 特定目的寄付金収入の内訳

イラク事業	78,040
モンゴル事業	87,925
東ティモール事業	749,445
インドネシア事業	2,000
アフガニスタン事業	189,035
ケニア事業	71,000
東日本大震災事業	679,630,974
スーダン事業	2,654,940
スリランカ事業	410,894
ハイチ事業	788,605
尾道事業	120,000
災害救助犬事業	888,834
トルコ事業	108,000
タイ事業	198,640

合計 685,978,332

② 2011年度に補助金、助成金、業務委託を受けた主な団体

特定非営利活動法人 ジャパン・プラットフォーム (JPF)
 外務省
 MercyCorps
 国際協力機構 (JICA)
 国連開発計画 (UNDP)
 国連人道問題調整事務所 (UNOCHA)
 大船渡市
 陸前高田市
 広島県
 JTIFoundation
 仙養ヶ原観光開発協会
 株式会社フェリシモ

③ 前期からの繰越金・次期への繰越金には、補助金、助成金、業務委託、特定目的寄付金等の未使用分を含みます。

支出の部	円	構成比
特定非営利活動に係る事業		
緊急人道支援・復興支援活動		
イラク事業	117,027,443	4.4%
アフガニスタン事業	3,978,923	0.1%
スーダン事業	138,062,469	5.2%
スリランカ事業	145,884,035	5.5%
ハイチ事業	160,215,614	6.1%
ケニア事業	2,113,406	0.1%
トルコ事業	3,622,075	0.1%
タイ事業	2,573,346	0.1%
国内災害事業	2,527,806	0.1%
東日本大震災事業	919,993,887	34.7%
海外事業共通費	10,042,700	0.4%
開発支援活動		
東ティモール事業	10,570,382	0.4%
モンゴル事業	299,346	0.0%
神石高原町集落再生事業	22,105,018	0.8%
人材育成事業	2,632,526	0.1%
関連事業に関する資料の収集と研究	3,500,000	0.1%
広報並びに募金活動	38,448,416	1.4%
事業費計	1,583,597,392	59.6%
管理費	62,943,509	2.4%
その他支出(固定資産購入支出、助成金返還額など)	202,141,087	7.6%
小計	1,848,681,988	69.6%
その他の事業		
支出	105,595,790	4.0%
当期支出合計	1,954,277,778	73.6%
次期への繰越金 ^③	702,656,272	26.4%
支出計	2,656,934,050	

貸借対照表 2012年1月31日現在

科目	特定非営利活動に係る事業	その他の事業	合計	
I 資産の部				
1. 流動資産	現金預金	615,777,388	11,853,074	627,630,462
	海外現金預金	77,524,931	0	77,524,931
	売掛金	0	5,723,445	5,723,445
	商品	0	12,251,224	12,251,224
	未収入金	1,392,511	0	1,392,511
	「その他の事業会計」立替金	51,350,225	0	51,350,225
	立替金	1,904,875	0	1,904,875
	前払金	693,135	0	693,135
	仮払金	5,387,294	0	5,387,294
	前払費用	984,507	0	984,507
	流動資産計	755,014,866	29,827,743	733,492,384*
2. 固定資産	建物附属設備	6,095,466	2,111,784	8,207,250
	車両運搬具	13,245,017	1,394,617	14,639,634
	工具器具備品	6,055,441	0	6,055,441
	リース資産	2,472,960	0	2,472,960
	電話加入権	308,952	76,440	385,392
	商標権	706,222	360,887	1,067,109
	ソフトウェア	1,212,138	53,409	1,265,547
	敷金差入保証金	5,126,430	0	5,126,430
固定資産計	35,222,626	3,997,137	39,219,763	
資産合計	790,237,492	33,824,880	772,712,147*	

単位:円

科目	特定非営利活動に係る事業	その他の事業	合計	
II 負債の部				
1. 流動負債	未払金	11,060,386	0	11,060,386
	未払法人税等	0	226,600	226,600
	未払消費税等	2,388,586	2,598,414	4,987,000
	預り金	1,908,873	0	1,908,873
	仮受金	402,029	0	402,029
	「特定非営利活動に係る事業会計」仮受金	0	51,350,225	51,350,225
流動負債計	15,759,874	54,175,239	18,584,888*	
2. 固定負債	退職給与引当金	5,361,525	0	5,361,525
	固定負債計	5,361,525	0	5,361,525
負債合計	21,121,399	54,175,239	23,946,413*	
III 正味財産の部				
正味財産				
正味財産	769,166,093	△20,350,359	748,765,734	
〔うち当期正味財産増加額〕	[341,676,227]	[△17,636,706]	[324,039,521]	
正味財産合計	769,116,093	△20,350,359	748,765,734	
負債及び正味財産合計	790,237,492	33,824,880	772,712,147*	

*内部取引51,350,225を差引いています。



PWJは、監査法人 エムエムピージー・エマックによる外部監査を受けております。



特定非営利活動法人 ピースウィンズ・ジャパン

東京事務所

〒102-0074 東京都千代田区九段南4-7-16 市ヶ谷KTビルI 5階

TEL 03-5213-4070

FAX 03-3556-5771

E-mail meet@peace-winds.org

www.peace-winds.org